

## 第3回栃木県不登校総合対策検討委員会の結果について

1 日時及び場所 令和6（2024）年10月24日（木）14時～16時 南別館4階教育委員室

### 2 議 事

#### (1)不登校対策の今後の方向性について

##### (委員からの主な意見)

##### ア 調査関係

- ・ 先生や友達と安心感のある関係がつかれるかどうかポイント（児童生徒調査）（保護者調査）
- ・ 今の子は友達とSNSで24時間つながっている。正しい使い方を理解させる必要がある。（児童生徒調査）
- ・ 市町教育支援センターの通所の利便性を高めるとよい。（保護者調査）
- ・ SC、SSWの利用者の満足度が高い。 → 入れ替わりが激しいため、長く従事できる体制づくりが必要（保護者調査）
- ・ 学校以外の場の有効性について、市町や校長による理解に差異がある。 → 共有認識をもてるように。周知も必要。（保護者調査）

##### イ その他

- ・ 今後のスケジュール感は？ → 再来年度からの事業化に向けて、来年度に具体化できるよう、本年度は方向性を検討する。
- ・ 学校やクラスの雰囲気づくりは一人の教員では難しい。学校が組織的に取り組むことが必要。  
→ 職員室の雰囲気づくりも大切。努力している先生が評価される仕組みがあるとよい。
- ・ 校内教育支援センターなど、教室に入れない時の学びの場を確保することが必要 → 人員の拡充が求められる。  
公認心理師等の専門職を配置するとよい。
- ・ 子どもによって適切な学びの場や支援は違う。個々のケース会議の充実が求められる。
- ・ 関係機関との連携はSSWに相談するとよい。教員とSC、SSWが話せる時間があることも大切。
- ・ 学校に戻れない子、戻らない子の対策を、考える必要がある。
- ・ フリースクール等の周知が必要。県全体で、教員と民間団体が相互理解を深める機会が必要。
- ・ 家から出られない子について、メタバースの導入など、県全体での取組が必要。

#### (2)不登校対策に係る教員調査について

- 対 象 初任から教頭までの教員の一部 約2,400名
- 概 要 家庭や外部専門機関との連携や校内体制、研修、未然防止、早期発見の課題、好事例等
- 期間及び手法 R6.11月～R7.1月 研修受講時に併せて実施（初任者、2年目、3年目、5年目、中堅教諭（10年目）、教頭）
- 委員の意見 児童生徒及び保護者対象調査と同様、欠席のきっかけを聞きとよい。  
民間機関の周知・連携の質問項目について、民間機関を保護者向けと子ども向けに分けて聞くとよい。